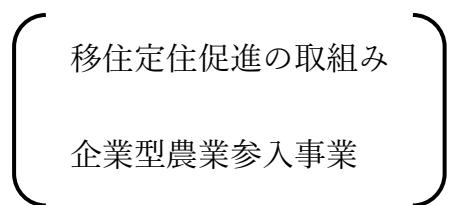


会派新政クラブ 行政視察報告書

【北杜市】移住定住と遊休農地の再生について



【報告者】鈴木ひとみ



【訪問日時】令和7年11月5日 14:00~16:00

【訪問場所】山梨県北杜市北杜市役所

【対応者】(敬称略)

北杜市議会議長 大芝正和

北杜市企画部ふるさと納税課課長 櫻井義文



北杜市企画部ふるさと納税課シティプロモーション担当 高柳直也

北杜市産業観光部農政振興課課長 福田和久

北杜市産業観光部農政振興課扱い手担当 櫻井孝弘

【視察目的】

近年大きな成果を上げている北杜市の移住促進事業について、その考え方、方法を学ぶ

企業による農業参入により遊休農地の活用が進んでいる北杜市の、農業への企業誘致について学ぶ

【北杜市の概要】

平成 16 年 11 月 1 日 北巨摩郡明野村、須玉町、高根町、長坂町、大泉村、白州

町、武川村の 7 町村が合併して誕生

平成 18 年 3 月 15 日 北巨摩郡小淵沢町合併

所在地 山梨県北杜市須玉町大豆生田 961-1

面積 602.48 km² 人口 45,104 人（令和 7 年 4 月 1 日）

山梨県北西部に位置し、北は八ヶ岳連峰、南西に甲斐駒ヶ岳からなる南アルプ

ス、北東は瑞牆山などの日本を代表する美しい山岳景観に囲まれている。首都圏

からの利便性、長い日照時間、清らかで豊富な水資源、高原性の気候、歴史的な

街並みや、滞在型温泉地など豊かな資源に恵まれています。

議員数 20 人

移住定住の取組み

【視察内容】

第 3 次総合計画 「2030 年、地域のありたい姿」の実現に向けて

子育てするなら北杜

移住定住するなら北杜

若い世代に選ばれる地域

を掲げ、

ターゲットは 20 代から 40 代の女性



ブランドイメージ 世界に誇る「水の山」へ。北杜市

明確な戦略を持って、北杜市とかかわる関係人口を増やし、移住定住へ導いています。

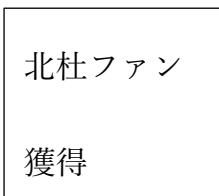
市への関わりの深さにより、ターゲットを明確にした施策を行い、認知度向上から「北杜ファン」、より深い関係性への誘導をしています。

北杜を知らない人…北杜の入り口→ふるさと納税

北杜に行ってみたい人…観光→観光誘客戦略（山岳観光の推進・ツーリズムの推進。インバウンド誘客など）

北杜に関わりた人…観光/二拠点居住→

北杜に住みたい人…UIJ ターン・移住・定住→



リピーター

移住定住相談

空き家バンク

移住支援金

奨学金返還支援など

北杜に住む人、住んでいる人…シビックプライドの醸成

取組 1 北杜ファンクラブ（デジタルクラブ）→さまざまなイベント

取組 2 大学生との共同による北杜市魅力発見プロジェクト

取組 3 東京周辺におけるプロモーション

取組 4 移住定住ガイドブックの作成

取組 5 ほくと交流会の開催



取組 6 タクシー事業者・民泊事業者と協業事業（移住希望の人の決断を後押し）

取組 7 移住者の声（北杜市公式 YouTube）

取組 8 各相談会への出展、移住相談会の開催

取組 9 定住自立圏共生ビジョン「八ヶ岳で暮らそう」

〔北杜市・富士見町・原村（県境を越えて協力）〕

どの自治体も転入超過を実現しています。



取組 10 やまなし県央連携中枢都市圏（県央ネットやまなし）

甲府市、韮崎市、南アルプス市、甲斐市、笛吹市、北杜市、山梨市、甲州市、

中央市、昭和町、市川三郷町、富士川町の 12 市町が、人口減少、少子高齢社会に

あってもお互いに連携し、社会経済が維持され、住民の暮らしを支えることがで

きるよう形成されています。

地域愛の醸成、空き家、就職紹介を共同で行っています。





取組 11 空き家バンク

- ・空き家バンク協力会 別荘などの2次的空き家の活用

空き家バンク活用促進リフォーム等補助金

対象→所有者

内容→ [家財処分事業] <売買/賃貸> [リフォーム事業] <賃貸>

補助額→補助対象事業の2/3の費用について

家財処分事業 最大100万円、リフォーム事業 最大150万円

対象→借受者・購入者

内容→ [リフォーム事業] <購入/借受>

補助額→補助対象事業の2/3の費用について リフォーム事業 最大100万円

所有者が物件売却する場合、借受者・購入者は、所有者が実施した家

財処分事業と合算して最大100万円まで補助を受けられる。

- ・空き家バンクポータルサイト
- ・空き家バンク啓発チラシ

取組 12 移住・定住に関する支援・補助等

- ・移住定住お試し住宅 7泊8日まで無料

- ・奨学金返還支援事業助成金

市内就業 助成率10/10 年額30万円上限 5年限度

市外就業・就業なし 助成率1/2 年額10万円上限 5年限度





・移住支援制度パンフレットの作成

・移住支援金交付事業費補助金

実績 令和 6 年 437 世帯、642 人

20 歳代 80 人、30 歳代 81 人、40 歳代 84 人 50 歳代 111 人

60 歳代 102 人 70 歳以上 71 人



【所感】

水が豊かで、自然に恵まれ、清涼な空気、首都圏のアクセスの良さ、といった北杜市のイメージを最大限に活かし、明確な戦略を持って北杜ファンを増やし、関わりをより深くするよう、対象に寄り添った、きめ細かな施策を行っています。

東京、大阪での「ふるさと回帰フェア」などのプロモーション活動、関心を持ってくれた人へのふるさと納税のアプローチから始まり、北杜ファンクラブなど様々なイベントへのへの勧誘、移住や二拠点生活を考え始めた人へのケアなど、市職員の情熱だけでなく、地域おこし協力隊による支援メニューの作成など、本気で、移住者の獲得に動いています。また、住むことによって得られる様々な補助制度、子育て支援など暮らしやすく、子育てしやすい環境が整っています。自然志向の若い人たちがここで暮らしてみたいと思えるまちであり、それがうまく発

信されていると思いました。館山でも取り入れられることは積極的に取組むべきと思いました。「全国で、若者の取り合いになっているから、そこに注力しない」のでは「若者が戻って来るまち」は実現しません。

企業型農業参入事業

【観察内容】

2020年農林業センサスによると、北杜市の農業経営体数は2,046、うち法人経営76で、高齢化により個々の経営体は減っているものの、法人化された経営、いわゆる地域営農組織等が形成され、農業は維持されています。近年では有機志向の新規就農者も増加傾向です。

北杜市の農業はかつて水稻と養蚕の複合経営が盛んでしたが、養蚕業は衰退し、桑園が荒廃農地となっていました。

第3次総合計画に企業型農業参入事業を位置づけ、農業法人等の誘致を積極的に進めています。

立地条件の良さ 豊かな水資源や、日本一の日照時間、首都圏からの近さ



農業法人26社が進出（令和6年度末時点）146haの荒廃農地が解消と
600人の地元雇用の創出

現在2企業の参入及び規模拡大により、おおむね52haの荒廃農地が解消予定

参入企業の多くは、施設栽培と醸造用ブドウ栽培を行っています。

企業型農業参入の成功のために必要なこと

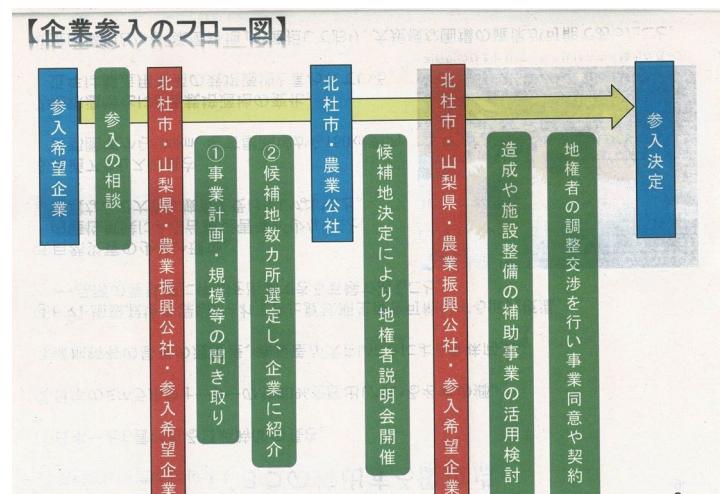
関係機関での密接な連携、情報共有、経験

«課題»

- ・地権者交渉
- ・多岐にわたる行政手続き
- ・参入資金調達



北杜市、山梨県、農業振興公社など関係団
体でプロジェクトチームを結成



北杜市農業企業コンソーシアム

北杜市に農業型企業参入を行った農業法人のうち、15社が連携し、平成27年に
「北杜市農業企業コンソーシアム」を結成。北杜市を活性化させるために企業同
士がネットワークを構築し、6次産業の推進、地域活性化活動を行っています。

【所感】

北杜市は恵まれた立地条件により、企業からオファーを受けて農業参入を受け入れ、荒廃農地の解消につなげています。

農業への企業参入には、様々な手続きが必要であり、参入が制限されたり、煩雑さから企業が進出をあきらめてしまうケースもあります。北杜市では、山梨県、農業振興公社などとの連携により企業の参入をスムーズにし、荒廃農地の解消だけでなく、雇用の創出、6次産業化の推進、地域活性化へとつなげている点が素晴らしいと思います。館山市も、企業型農業参入を積極的に受け入れる仕組みづくりをすべきです。農業者の高齢化により、耕作放棄地が爆発的に増加する可能性があります。温暖な気候で四季を通じて作物を作ることができる、豊かな農地を荒廃させないために、今から取組むべきと考えます。

